

戸山幼稚園

実施報告書 < 音楽 >

令和5年度教育水準向上支援事業費補助金に係る申請書類

2024年2月25日

ねらい

- * 様々な楽器に触れ、その音色やメロディーを楽しむ。
- * 様々な音楽に触れて楽しみ、自分なりに表現することを楽しむ。

<1 学期>

事例①自由遊び（カラオケ、発表会ごっこ）



- ・進級したての年長児が新しい部屋の環境にあった楽器を発見し触りだす。そこから派生してカラオケ大会のような盛り上がりが見られた。CD デッキがある部屋が限られているため、他クラスでの演奏を余儀なくされていた。⇒CD デッキを追加購入し、子どもたちの遊びが場所によって制限されないように配慮。
- ・子どもたちが自由に扱える楽器は、すず、タンバリン、カスタネット。その中に2つだけ、持ち運び用の木琴があるものの、ケースが壊れていて本来の用途で扱えずにいる。⇒同じ物を買って替えと同時に追加購入し、園全体で楽しむように検討。

事例②自由遊び（音楽会）

・ホールの舞台上で年長児が音楽会を開催しているのを見て年少児が憧れたものの、上記によって参加できる人数に制限が必要となってしまった。



しかしながら、年長児の遊びはとても魅力的でホールに立つことが魅力的に感じ始めた年中、少児が多数。

⇒事例①同様、楽器の数を増やし全学年主体的に遊べるように検討。

事例③父母の会主催イベント（ミツル&りょうた）

・これらの姿を父母の会と共有することで、毎年行っている、父母の会主催のイベントでは子どもたちが気に入った曲のアーティストを呼ぶことに挑戦。一緒に歌って、踊ることができた。



<2学期>

事例④体操、ダンス

・年長児の影響を受け、年少児のみで体操に挑戦するようになる。保育者の真似をして取り組み、馴染みの曲などが出来る。⇒これらを運動会や発表会に活かすことで、子どもたちの自信や充実度が強くするため、子どもたちの集中力に合わせて音楽編集などのソフトを購入したい。



事例⑤父母の会主催イベント（ともとのガラクタ演奏会）

・また、より音楽的活動に親しみを感じられるように、保護者の提案から廃品楽器の遊び方や作り方を学べるように別のアーティストを2学期（9月）に招く。特に今回は廃材でシェイカーを作り、演奏会に参加することもできた。⇒山口ともさん『ガラクタ演奏会』



・実際に自分たちも奏でる意欲が高まったため、本物の楽器に触れて、興味を高められるように卒園児・在園児の母によるコンサートを開催。子どもたちのリクエスト曲や、クラシックを聴くことができた。(10/26)



【購入楽器】

・収納棚も追加



事例⑥「クリスマス会（職員出し物）2月15日」

楽器の種類を増やしていくことで、子どもたちが実際に触れて楽器演奏の機会も増えていった。クリスマス会には、実際に購入した楽器を保育者が出し物として扱うことで、子どもたちの刺激となるよう工夫した。



事例⑦「生活発表会（音楽会）2月16日」

楽器の面白さを感じ、3学期の生活発表会にて子どもたちが手作り楽器を作り、音楽会を計画した。様々な廃材やガラクタを集めて、オリジナルの楽器作りを楽しみ長期的にプログラムを相談して発表が出来たため、保護者の感想を貰ったり、みんなに拍手されることで自信を付ける機会となった。この音楽会の中で、様々なプログラムのアイデアが出たのは、この1年間での音楽表現のインプットの時間があったからだと感じる。

